

日大闘争大報告集会 に結集しよう

三月二日(日) 午後二時

千葉市教育会館大講堂

日大金共闘代表

井上清(京大教授)

野坂昭如(評論家)・戸村一竹(三里塚芝山空闘反

対同盟委員長)

千原景下の闘う闘ての労働者学生市民農民の皆さん!

昨年日大闘争時、日本大学十回余を出版して以来弾圧と真敵を暴露し、20年連続不明命を
闘いの引火種として出発しました。日大の歴史の中で最も多くの弾圧をうけた弾圧されて来た
十万人大生の怒りは、経済学部二百ノートの抗議デモに始まり、夜々の古田理事長への
抗議の闘いに対して、あまりにも古田理事長の学生を無視した弾圧に日大生の怒りは止める
ことのできぬものとなり燃え広がりました。そして6月5日の全学評議会に結集した十万人
友対する右翼の大学当局と一体化しての経済学部校舎よりの襲撃、砲丸、オラヌなどを投
げ向けて落してきての集会への暴力的圧迫に対する怒りは、畢竟その場限りで終り終わ
るのではなく、「日大をどろくまでしません!」との弾圧の中から学生んだ抗議の怒りのもとに
古田体制との非妥協的闘いを日大十万人の学生の高揚をもって全社会に宣言したのでです。
とりもたず、全社会に展開していた学生民主主義の幻想の滅を突きやめて打ち破ると
の宣言は、その日のうちの学生部武装バリケードストライキ突入とをつけたのです。そして、
古田体制との非妥協的闘いを激化させるがごとく夏休みをとり闘う学生に対する運動を日大
全学闘バリケード闘争をもって闘い抜いたのでした。

7・30大衆闘争が事実ともた、激闘を全学部ストライキ闘争の延長線上にのいての反動
古田体制を打倒する大衆的闘いであつたが既に古田反動理事長は丸呑みを強引し、内陣では
9・4反動分をみられる古田理事長自らの手を汚しての学生弾圧方式が失敗をせられ朝陽的
決闘に陥いつてしまつたのです。だが10・1反動委員が暴動したように反動委員会が、
今にも崩れはせんとする私立大学の教育体制に自らの政治的危機を直感し、支配者層の代
表として一方的な日大十万人学生に対する弾圧を連綿絶続的大衆闘争は認めぬ」と云う一偏の

首相派首をもつておとせ、古田体制を崩壊せよとされたのです。半開戦を始めては、古田体制を
こころなげに崩壊させ、その国家権力の徹底的介入と修正をねがふに物足りません。

古田反動体制の「50%以降のひらき」と、右派へ国家権力援助の一体化を望む、東大教授
陣への右翼スト激闘を暴力事件にする実態の裏で、古田体制の崩壊と、第一線の日本共産党
の政治的闘争として、60年闘争から70年闘争は開かれるのです。

闘争千重丸の労働者学生市民農民の皆さん
日大闘争の展開は東大闘争がそのもつた大勢に古田反動体制は半なる労働者陣営のよみで、古田
自らの政治的生存を賭けての半開戦、一対抗闘争、人試と行く政治闘争のもとには、日大十万人や
全国百万の学生への一切を断絶した、「日本大学を暴力より守れ」と叫ぶ実名の反動派陣営を
振りまき、日大闘争を歴史の中から断絶するつもりとされているのです。それはとりもよまな
く、古田体制の存続であり、支配者陣の存続のまじりものでもありません。日大闘争は、何一つ
解決していません。彼らの存続の保障は、暴力による政治的闘争の継続をしなければいけません。
いかりです。秋田全共闘委員長連名目の理工学部、法学部、経済学部の最近の機動隊導入は
このことを明確に示しているのです。機動隊導入こそまさしく日大闘争継続のまじりものでも
なく、日大闘争はすでに、国家権力とも非暴力的闘争を必要としているのです。そして、
日本共産主義のもとで、採取されねばならぬ人連と連帯した闘いとして日大闘争、半開戦
闘争は存在しているのです。

他この千重丸の皆さん、今こそ真に自らの闘いを通して闘争し、ともに闘い抜かぬはな
らぬと、日本大学全学共闘会、千重丸の地において、闘争を先頭に闘われたいと
同時に日大闘争が、吉田野校舎、津田沼生薬工字室においても闘われ、古田体制と国家権力
の専断をわきまさない血の闘争が、毎日闘っていることを報告します。

- 古田体制打倒 //
- 大項目完結 //
- 全学闘争激化 //

主催 日本大学全学共闘会

実行委員 吉田野闘争委員会

津田沼共闘委員会

日大闘争実行委員会